

のんびりゆったり
安曇野ぶらぶら
ガイドウォーク



あづみの あるく路

NO.3

物流街道の宿場町 豊科・成相新田を訪ねる

～町の誕生は江戸時代の都市計画!?～

安曇野市の中心エリアである豊科の成相新田地区は、中世に甲斐武田氏の拠点として館が築かれるなど交通の要所として存在していました。小集落と呼べる規模の開発はありましたが、本格的に町として発展を始めたのは江戸時代初期に松本藩が物流街道の千国街道で、伝馬宿を整備したことによるとされています。

近代以降も南安曇郡の郡役所が置かれるなど、地域社会の中心地として発展。昭和以降は大規模な工場誘致を行い近代産業都市へと変化し、街道周辺の飲食店街も大いに繁盛するなど、農村集落主体の安曇野にあって異色の存在となりました。近年は市街地の空洞化が課題になっていますが、近世から近代までの町の歴史が随所に見られ、裏路地も含めたちょっとディープな安曇野のまち歩きを楽しめます。

※平成26年度・長野県地域発元気づくり支援金を受けて作成されました。

※この地図は「安曇野あるく路」の資料として作成されました。

散策の際は歩きやすい服装を心がけ、車などの往来に十分注意し、各自で責任を持って行動してください。

また住宅敷地内などプライベートな空間への立ち入りは、慎んでください。

編集・発行 安曇野案内人倶楽部

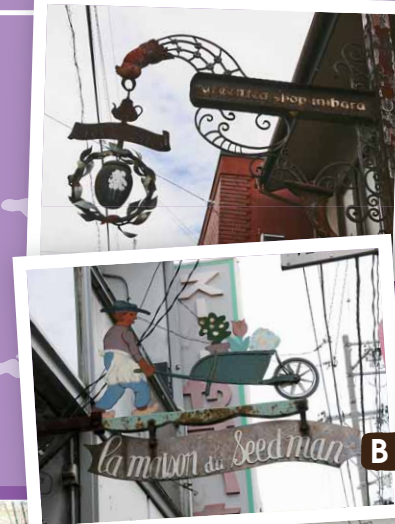
〒399-8303 長野県安曇野市穂高5971-1(クラフトショップ安曇野内)

TEL: 0263-88-5563 FAX: 0263-88-5565

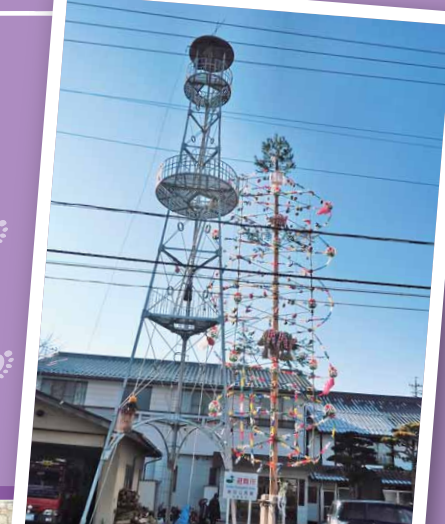
URL: <http://azumino-guide.com> E-mail: info@azumino-guide.com



A 旧市川歯科 大正時代建築の近代遺産



B 街道に残る個性的な装飾看板



C 火の見やぐらと1月の風物詩「御柱」



F 旧豊科劇場
戦前～戦後に賑わった劇場・映画館



E 豊科学校跡
街道の合流点に設置された明治期の学校



H 開道記念碑 大正4年1月5日開道



G 豊科醤油 地元でおなじみの醤油醸造店



D 成相追分 旧街道の分岐点

のんびりゆったり
安曇野ぶらぶら
ガイドウォーク

安曇野
あつみの
あるく路
NO.3

物流街道の宿場町
豊科・成相新田を訪ねる
～町の誕生は江戸時代の都市計画!～

1 豊科駅



大正4年(1915)1月6日開業で、穂高駅と並ぶ安曇野市の中心駅。ハーフティンバーを活かしたスイスの山小屋風デザインが好評です。

●二宮金次郎像

駅舎の脇にある二宮金次郎の石像。昭和初期、当時駅長だった五十嵐金次郎が自身の名前を誇りとして建立したものです。



2 千国街道・成相新田宿



江戸初期、松本藩の命により領内の交通運輸を整備する一環として誕生した宿場。すでに小集落としてあった南側を成相町村、新たに町割りされた北側の地区を新田町村とし、新田の入植者は松本藩領外からもあったといえます。現在は町のすがたも大きく変わりましたが、通り沿いの町屋や民家の様子は宿場町であった頃の面影を感じさせてくれます。



3 十返舎一九宿泊処の石碑



「東海道中膝栗毛」の作者として有名な江戸後期の作家、十返舎一九。先の本を出版後、文化11年(1814)に信州を訪れた際、ここ成相新田宿にも宿泊。翌日ここから穂高牧の満願寺へ移動していったという記録が残されています。この時の踏査記録を活かしたのが「続膝栗毛」で、文化13年(1816)発刊の第八編「従木曾路善光寺道」にて成相新田宿の様子などが紹介されました。



4 周岳山法蔵寺



浄土宗知恩院の末寺で、創建は永正3年(1506)。もとは別の場所にあり、現在地には当初甲斐武田氏の戦略拠点となる館があったとされています。(安曇野市史跡)江戸初期の成相新田宿の整備にともない慶長16年(1611)に同地へ寺が移転。明治初年の廃仏毀釈により廃寺となって本堂や庫裏は解体されましたが、無事残った山門や鐘楼門などは貴重な歴史資料として文化財に指定されています。



●山門

寛政元年(1789)建立。諏訪大社下社春宮の幣拝殿も手がけた名工・伊藤(柴宮)長左衛門の代表作で、大きく特殊な屋根の構造が印象的です。彫刻が多数見られることも特徴で、唐獅子・竜・麒麟など主題は48種にも及びとされています。(長野県宝)



●鐘楼門

山門建立から数年後、同じく伊藤長左衛門の手により建立されました。(国登録有形文化財)

●古井戸

境内の一角に残る深さ13メートルの巨大な井戸。



●庫裏

もとは江戸中期頃に堀金岩原にあった安楽寺の庫裏として建てられたものですが、廃仏毀釈により明治4年(1871)に穂高町の商家へ移築。さらに明治45年(1912)、この商家より同寺が引き取り庫裏として再利用することとなりました。規模が大きく、当初の形をよく残していることから文化財的価値の高い建物と評価されています。(国登録有形文化財)

5 安曇野市豊科郷土博物館



旧豊科町時代から続く郷土の歴史資料館。民俗資料を中心にした常設展示コーナーのほか、地元ゆかりのあるテーマの企画展や講座も定期的開催されています。



※入館料：大人100円、中学生以下無料



6 八坂神社



明治維新後の社会騒動も一段落し、町では商業を発展させようと初市を興すことが計画されました。しかし、もともと成相は南隣村の本村神社が氏神であるため成相自体の祭神はなく、市を興すことができませんでした。そこで京都祇園の八坂神社の祭神・素戔鳴尊(すさのおのみこと)を勧請。その春祭りとして役所に申請し、認可されたのでした。明治15年(1882)創建(新田地区は氏神として新田神社が別の場所に鎮座しています)。

●あめ市と福俵引き

初市はあめ市と呼ばれています。松本で始まった塩市の名前が鉛市に転じ、のちに千国街道の各町に伝わったものとされています。塩市の起源は諸説ありますが、上杉謙信から武田信玄に塩が送られた故事(伝説)を由来とする話が有名です。成相新田のあめ市の特徴は福俵曳きという神事が行われること。正月の伝統行事・御柱に飾られた福俵を地元の若衆が町中を曳き回し、俵を地面に叩きつけて五穀豊穡を祈り、重税に苦しむ農民を象徴する姿を人間やぐらで示します。そして最後は前年に慶事のあった家に出向いて、家人と若衆の間で俵の引き合い合戦を行ったのち無事引き渡しを済ませます。ローカル色豊かで素朴なお祭りですが、奇祭とも呼べる珍しいものなので一見の価値ありです。



7 うろたえ橋界隈



現国道にまだ車の往来が見られなかった時代、街道の真ん中には水路が走り、東西の町屋裏手には呑堰(のみせぎ)が引かれていました。呑堰へ通じる水路が街道を横切る場所に石橋がかけられ人々から「うろたえ橋」と呼ばれていたのですが、これは周辺に軒を連ねる料理屋や置屋で飲みすぎたり支払いが不足してうろたえる人がよく見かけられたことなどから、いつの頃からかそう呼ばれるようになったのだそうです。



●旧丸屋製菓舗

うろたえ橋のあった交差点に面して、かつて菓子屋だった趣ある建物が残っています。現在はボン菓子「ぼんべ」が営業しており、昔懐かしいボン菓子の販売をしています。



●大黒天像

うろたえ橋の橋石を転用して彫られたものと伝わっています。